



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

政治の世界では一寸先は闇！

和歌山県の木村良樹知事が談合事件の関与を理由に辞職後、逮捕されました。その結果、2006年11月30日告示、12月17日投票の知事選挙が幕を開けました。私のような落選中の候補者にとっては、選挙の可能性が生じるのは有難いことです。

ただし、私は次のような理由で、知事選に出る意志はもとよりありませんでした。私がすべてを捨てて、ふるさと和歌山に帰って、衆議院総選挙に民主党から出馬したのは、「二大政党による政権交代可能な政治」が政治の腐敗や官僚との癒着を断ち切り、日本を活性化すると確信したからです。



その意味では、和歌山のように民主党がほとんど存在しない地域こそ、民主党を育て、二大政党政治を実現しなければなりません。今、和歌山県議会は自民党25人で、定数46人の過半数を占めています。これまで民主党の県議員はゼロでしたが、9月議会からようやく2人になりました。万が一、私が知事になって県政を改革しようとしても、重要な条例はすべて議会で否決され何もできません。むしろ、議会運営上、自民党と妥協を重ねていくこととなります。それでは、県知事という地位と名誉だけを得ても、私のやりたい政治を行うことにはなりません。改革を進めるためにも、まず足腰である民主党系の県議員を増やすことが先決です。衆議院議員になって、その運動の核になりたいと考えていました。

ところが、私自身が民主党の和歌山県連代表になっていたものですから、おのずと知事選に巻き込まれていきました。候補

者の選定が私を含む三役に一任されました。大学教授、NPOの代表者、地元の有力弁護士などに打診を続ける中で、皆さんに断わられてしまい、最後に串本町議で来年の県会議員候補の女性、清水和子議員に白羽の矢を立てました。彼女は40億円の見積りゴミ焼却炉に反対し、調査の結果を突きつけて、8億円余りで落札させた信念の「談合ファイター」です。快く、立候補を受けてくれました。

ところが、県連の常任幹事に三役提案として彼女の推薦を提案しましたが反対されました。反対意見の多くは、清水議員の知名度が低く、短期間の選挙では浸透が難しいということでした。「町会議員という肩書き」に難色を示す幹事もいました。私たちは肩書きよりも本人の見識、政治姿勢などで選ぶべきだと考えましたが、通りません。幹事を何回も開き、上京して党本部と何回も調整をしました。しかし、最終的には調整ができず、推薦を断念して自主投票となりました。県民に選択肢を示せなかった責任を取り、私は県連代表を辞任しました。

落選中で、ドブ板だけをやっていました私ですが、こんな大きなドラマに巻き込まれてしまいました。結果を残すことはできませんでしたが、大変勉強になりました。私自身、まだまだ力がないことがよくわかりました。私も含め、もっと力を蓄えて、地方政治スクールなどの勉強会を開催しながら、地方議会の議員を育てていかなければなりません。その意味でも、2007年の統一地方選挙は重要です。推薦・公認合わせて5人の県議員候補と6人の市議会議員候補の全員当選を果たします。そして、続く2回の統一選挙のたびに、倍倍ゲームで候補者を増やし、2015年には県議会の過半数を民主党系の議員にするのが目標です。

代表を辞任した翌日、早朝の駅前街頭演説をし、市民の皆さんに経過をご報告し、独自候補の推薦断念のお詫びをしました。数々の厳しいお言葉もいただきました。当然だと思います。一方で、励ましてくださる方も大勢おられました。岸本周平はゼロから再出発いたします。

